

国語通信

はまなす



令和7年 4月 NO. 1

今年度の部会研究の始まりにあたり

石教研国語（小）部会
部長 鹿島 美穂子

令和7年度も、石教研国語（小）部会へ登録していただきありがとうございます。

今年度から、新たな研究主題『生き生きと学びながら資質・能力を身に付けられる国語科授業の創造～「読むこと」教材における言語活動や学習計画の工夫を通して～』を設定し、2ヵ年計画での研究がスタートします。昨年度まで「話すこと・聞くこと」の研究を進めてきましたが、昨年度は教科書も改編され、新しい読み物教材が増えました。まだ石教研国語部会として、新たな教材の研究が進められていないことを鑑み、再び文学的文章教材について研究を進めます。また、昨今研究が進んできている「個別最適で、協働的な学び」についても、石教研国語部会として、国語科の授業でどのようにアプローチできるのかを探ることも必要不可欠であります。今年度は、2ヵ年計画の初年度ですので、まずは、様々な実践を集め方向性を見出していく年度と考えております。研究成果を交流する2次研究協議会は江別市が中心サークルとなっておりますが、公開授業の参観や交流はもちろんのこと、各サークルの実践についても交流し、研修を深められたらと思います。

なお、期日は未定ですが、今年度も淑徳大学の青山由紀先生による実技理論研修会を予定しています。今年度は可能でしたら青山先生をお招きして開催できればと、研修会の持ち方について模索中です。追ってご連絡しますので、こちらもぜひご参加いただければ幸いです。部会員の皆様の国語に対する見識が少しでも高まり、新たな気づきが1つでもあったとしたら、大変嬉しく思います。

今年度の研究が始まりますが、部会員の皆様におかれましては、様々な場面で、それぞれのお立場から、部会の研究活動に変わらぬお力添えをいただければと思います。私たち事務局も、これまで以上にわかりやすい部会運営と情報の発信に努め、部会の大切な共同研究に微力ながら貢献して行く所存ですので、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

1 令和7年度 役員・推進委員・教育課程委員名簿

【役員】

| 役職 | 役員 | 学校名 |
|--------|-------|-------------|
| 部長 | 鹿島美穂子 | 江別市立江別第二小学校 |
| 副部長 | 湊哲朗 | 千歳市立北陽小学校 |
| 事務局長 | 熊谷夏子 | 江別市立大麻西小学校 |
| 事務局次長 | 澤飯聡人 | 恵庭市立若草小学校 |
| 研究員 | 佐藤優佳 | 江別市立江別太小学校 |
| 教育課程代表 | 矢萩千鶴 | 北広島市立東部小学校 |

【推進委員】

| 市町村 | 推進委員・連絡員 | 推進委員学校名 |
|--------|----------|-------------|
| 千歳市 | 高橋由紀子教諭 | 千歳市立みどり台小学校 |
| 恵庭市 | 田中 啓之教諭 | 恵庭市立若草小学校 |
| 北広島市 | 小川 英子教諭 | 北広島市立大曲東小学校 |
| 江別市 | 口岩 竜馬教諭 | 江別市立中央小学校 |
| 石狩市 | 阿部 真也教諭 | 石狩市立緑苑台小学校 |
| 当別・新篠津 | 谷内 勇也教諭 | 当別町立とうべつ学園 |

【教育課程研究委員】

| 任期(年度) | 選出サークル | 氏名 | 学校名 |
|--------|--------|----------|------------|
| 7年度 | 千歳 | 太田 千穂教諭 | 千歳市立緑小学校 |
| 7年度 | 恵庭 | 高津 健教諭 | 恵庭市恵庭小学校 |
| 8年度 | 石狩 | 本間 里彩教諭 | 石狩市立厚田学園 |
| 7年度 | 江別 | 澤辺 留実教諭 | 江別市立文京台小学校 |
| 8年度 | 北広島 | 阿部 まりえ教諭 | 北広島市立双葉小学校 |

2 次年度役員選出について

| 役員 | 選出サークル |
|-----------|-------------------------------|
| ① 研究員 | 千歳サークルから1名選出 |
| ② 事務局次長 | 石狩サークルから1名選出 |
| ③ 教育課程委員会 | 江別・千歳・恵庭サークルから1名を教育課程代表（任期1年） |

—役員をつながり任期について—

| 研究2年毎 | 2023 R5 | 2024 R6 | 2025 R7 | 2026 R8 | 2027 R9 | 2028 R10 | 2029 R11 | 2030 R12 | 2031 R13 |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 部長 | 岩崎 | 福島 | 鹿島 | 湊 | 江別2 | 千歳3 | 恵庭4 | 石狩5 | 北広島6 |
| 副部長 (研究計画作成) | 福島 | 鹿島 | 湊 | 佐藤 | 千歳3 | 恵庭4 | 石狩5 | 北広島6 | 江別7 |
| 研究員 | 鹿島 | 北広島1 | 佐藤 | 千歳3 | 恵庭4 | 石狩5 | 北広島6 | 江別7 | 千歳8 |
| 事務局長 | 阿部 | 藤原 | 熊谷 | 澤飯 | 石狩B | 北広島D | 江別E | 千歳F | 恵庭G |
| 事務局次長 | 藤原 | 熊谷 | 澤飯 | 石狩B | 北広島 | 江別E | 千歳F | 恵庭G | 石狩H |
| 教育課程委員会代表 | 松田 | 佐藤 | 矢萩 | 江・千・恵 | 石狩・北広 | 江・千・恵 | 石狩・北広 | 江・千・恵 | 石狩・北広 |

- 研究員（任期1年）を経た後、副部長（任期1年）を務め、部長（任期1年）を務めます。つまり、研究員→副部長→部長の3つの役職をする場合は3年間努めることとなります。また、事務局次長（任期1年）を経た後、事務局長（任期1年）を務めることとなります。つまり、事務局次長→事務局長の2つの役職をする場合は、2年間努めることとなります。
- 教育課程委員長は、各サークルの教育課程委員の任期を終えた方が務めていただくこともあります。
※当別・新篠津は人数が少ないので輪番に入れません。

国語(小)部会 第30期 研究計画

I. 研究主題

生き生きと学びながら資質・能力を身に付けられる国語科授業の創造
～「読むこと」教材における言語活動や学習計画の工夫を通して～

II. 研究目的

1. 主題設定の理由

(1) 研究の経過

第28期（令和2年～令和4年度）

「考えの形成につなげる新しい時代の国語教育」

- ① 「読むこと」領域の「構造と内容の把握」「精査・解釈」の段階で、全体を見渡して大まかな構造や内容を捉えたうえで焦点化して授業を進めていく研究を進めた。
- ② 文章理解を高めるために効果的な「主体的・効果的で深い学び」の視点に立った指導計画の重要性について確認することができた。

第29期（令和5年～令和6年度）

「資質・能力を育成する言語活動の創造」

～話すこと・聞くこと教材における「言語活動」の効果的な活用を通して

- ① 「内容・構成の検討」「考えの形成」における「話すこと・聞くこと」を高めるための指導事項を、授業場面の中でどのように位置づけていくかを研究した。
- ② 適切な言語活動を設定することで、「主体的・対話的で深く学ぶ」姿が見られ、「話すこと・聞くこと」の資質・能力を高めることにつながった。

第28期で研究してきた「読むこと」領域では、「構造内容の把握」「精査・解釈」のための指導事項を明確にし、それを切り口にして新しい読み方を研究してきた。

第29期は、「話すこと・聞くこと」領域の〔思考力・判断力・表現力等〕の資質・能力の育成に関わる言語活動の研究を進めてきた。各サークルの実践では、様々な取り組みにより、主体的に話したり聞いたりする児童の姿が見られ、「話すこと・聞くこと」領域における言語活動の在り方として、一定程度の成果が得られたと考える。

(2) 主題について

新「学習指導要領」の国語科の目標では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す」となっており、新「学習指導要領」における言語活動は、「記録・要約・説明・論述・話し合い」となっている。まさに「教える授業」から「学び合う授業」への転換、協働によって考えを広げたり深めたりすることを通して、〔思考力、判断力、表現力等〕という資質・能力を育成していく授業が求められている。

前述したように、第 29 期の研究では、「話すこと・聞くこと」領域に焦点を当てて研究を進めた
が、様々な言語活動を通して、各サークルの授業実践の中で、児童が主体的に生き生きと話したり
聞いたりする姿が多く見られた。児童が「話したい」「聞きたい」と思えるような教材選定や言語
活動の設定、学習計画の工夫が行われ、児童が「主体的・対話的に深く学ぶ」姿につながったと考
えられる。

令和 3 年に中教審答申によって示された、「個別最適で、協働的な学び」についての研究が進ん
できている。「個別最適な学び」とは、児童が主体的に学習課題を設定したり、学習が最適となる
ように調節したりして自律的に学ぶことである。「協働的な学び」とは、多様な他者との対話を通
して深く学ぶことである。つまり、「個別最適で協働的な学び」とは、「主体的・対話的で深い学び」
の実現の手段であるといえる。

以上の点を踏まえると、各学年における国語科の指導事項に即して、児童にとって魅力的な言
語活動・学習計画の工夫や、個別最適で協働的な学びを手段として講じることで、「主体的・対話
的で深い学び」に向かい、資質・能力が育まれると考えられる。

第 30 期では、教科書の改編に伴い、まだ石教研国語部会として研究が進んでいない「読むこと」
領域の「文学的文章教材」において、国語の資質・能力の目標達成実現のために、「主体的・対話
的で深い学び」に向かうべく、部会員と力を合わせて研究を進めていきたい。そのためには、29 期
で培った児童にとって魅力的な言語活動や学習計画の工夫と、「個別最適で協働的な学び」を取り
入れることが必須である。そうすることで、生き生きと学びながら資質・能力を身に付ける児童の
姿が期待できると考える。

2 か年計画で研究を進めるが、児童にとって魅力的な言語活動を設定し、学習計画を工夫しな
がら、1 年次となる今年度は、「個別最適な学び」の工夫について、2 年次目は、1 年次の研究を
踏まえ、「協働的な学び」の工夫について授業実践を通して検討していきたい。また、「文学的文章」
の学習においても、積極的な ICT の活用が図られることを期待する。

尚、第 28 期の研究計画にあった「主体的・対話的で深い学び」の例を以下に示した。今後も指
導計画をたてる際に位置付けていきたい。

国語科における主体的な学び

学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面の設定
〈例〉個の問いを顕在化する工夫、試行錯誤できる学習環境、学習内容のまとめ・適用、必要
感のある課題設定、多様な学び方の提供、文字言語での振り返り

国語科における対話的な学び

対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定
〈例〉対話する必然性のある課題設定、学習内容に応じたグループサイズ（ペア→グループ→
全体等）の運用、情報の取捨選択、話を聞き合える関係性の構築

国語科における深い学び

児童が考える場面と教師が教える場面の組立て
〈例〉知識や技能の適用場面を設定、既習内容や経験と関連付けた思考の促進、個の問いの顕
在化、必要な課題の設定

2. 目指す子ども像

- (1) 学習のゴールに向かう言語活動を通して主体的に学習を進める子ども。
- (2) 自己の目標に合わせて自律的に学び、対話を重ねて協働的に学ぶ子ども。

3. 研究仮説

言語活動や学習計画を工夫し、個別最適で協働的な学びを通して、国語科における資質・能力が身に付くだろう。

III. 研究内容

1. 研究領域

「読むこと」領域の「文学的文章」における「精査・解釈」「考えの形成」の場面

2. 研究の柱

- (1) 児童にとって魅力的な言語活動の設定の工夫
- (2) 「精査・解釈」「考えの形成」の場面における「個別最適な学び」の工夫

3. 教育課程研究

教育課程委員研修会において、第30期研究の一環として、第二次研究協議会で扱う教材以外についての「指導事例」を試作し、部会員に配付する（予定）。

IV. 研究方法

- 令和7・8年度の2ヵ年計画で行う。
- 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。ただし、各市町村第二次研究協議会における授業公開および石教研第二次研究協議会での提言を行う学年と教材については、「読むこと」領域における「文学的文章」から選び、次の表にまとめた。なお、授業を行う学年の指定は行わない。

| 学年 | 教材名 | 言語活動例 |
|-----|---|--|
| 1年生 | やくそく・くじらぐも・たぬきの糸車 ずうっと、ずっと、大すきだよ | ○本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 |
| 2年生 | ふきのとう・スイミー・お手紙 みきのたからもの・スーホの白い馬 | ○物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○物語を読んで感想を書くこと。 ○読んだ本について、好きなどころを紹介すること。 |
| 3年生 | 春風をたどって・まいごのかぎ ちいちゃんのかげおくり・三年とうげ モチモチの木 | ○物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○紹介したい本を取り上げて説明すること。 |
| 4年生 | 白いぼうし・一つの花・ごんぎつね 友情のかべ新聞・スワンレイクのほとり で | ○必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。 |
| 5年生 | 銀色の裏地・たずねびと やなせたかしーアンパンマンの勇気ー 大造じいさんとガン | ○伝記を読み、自分の生き方について考えること。 ○本を読んで推薦の文章を書くこと。 |
| 6年生 | 帰り道・やまなし／イーハトーヴの夢 ぼくのブック・ウーマン・海の命 | ○本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 |

3. 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、以下の要領で部会研究を進める。
 - (1) 授業学年の各教材について、「どの教材でどのような言語活動が適当か」を、児童の実態を鑑みながら検討し、年間指導計画を作成する。
 - (2) 年間指導計画に沿って、公開授業単元の学習構成を検討する。
 ※指導案の指導計画に「個別最適で協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」についての記述を加える。(詳細は「研究ガイド」)
 - (3) 授業公開後、事後研を持ち、提言をまとめる。
 ※年間指導計画、指導案形式、提言の形式については新年度発行の「研究ガイド」に掲載する。
4. 実技理論研修会を開催し、日常の実践に生きる学習の場を設定する。
5. 「各学年の指導事項」を作成し、年間指導計画作成の際に役立てられるよう、HPにも掲載する。

V. 研究体制（組織・運営）

1. 研究中心サークルを研究1年次目の令和7年度は江別市、研究2年次目の令和8年度は千歳市とする。
2. 分科会構成は、低・高の2ブロックとする。分科会での研究協議は、中心サークルの授業提言の他、各市町村サークルの提言を主とするが、個人レポート提言も受け付ける。また、分科会協議の深化を図るため、各市町村の提言状況やレポート数によって時間配分を考慮する。
3. 推進委員研修会（部会役員・各市町村の推進委員）を組織し、研究計画の具体化や石教研第二次研究協議会の運営等について協議する。
4. 定期的に部会報「はまなす」を発行し、研究内容や各種研修会の周知等に努める。
5. 「研究ガイド」を発行し、部会研究の取り組みの向上と焦点化を図る。

VI. 年間計画

| 時期 | 研修会名・事業名 | 内容 |
|-------|-----------------------|--|
| 4月 | 石教研専門部会第一次研究協議会・役員研修会 | 研究計画、研究体制の確認 |
| | 「はまなす」No.1発行 | 年間指導計画様式 |
| 5月 | 役員研修会、推進委員研修会① | 各市町村提言予定状況の確認 |
| 6月上旬 | 「はまなす」No.2発行・研究ガイド発行 | 各市町村提言予定状況、部会事業計画、サークル便り交流、第二次研究協議会に向けて提言の仕方提示 |
| 7月 | 推進委員研修会②、役員研修会 | 第二次研究協議会開催要項検討 |
| 9月上旬 | 「はまなす」No.3発行 | 第二次研究協議会開催要項 |
| 9月12日 | 実技理論研修会 | |
| 10月 | 第二次研究協議会拡大推進委員研修会 | 第二次研究協議会開催要項確認 |
| | 石教研専門部会第二次研究協議会 | 授業提言、分科会交流 |
| 11月 | 推進委員研修会③、役員研修会 | 第二次研究協議会交流、アンケート見解検討、「石狩の教育」原稿検討 |
| | 「はまなす」No.4発行 | アンケート集約、見解 |
| 12月 | 役員研修会 | 次年度研究内容の立案・検討 |

| | | |
|----|----------------|-----------------------|
| 1月 | 推進委員研修会④、役員研修会 | 次年度研究計画案内容検討 |
| | 「はななす」No.5 発行 | 次年度研究計画案提示 |
| 2月 | 推進委員研修会⑤、役員研修会 | 次年度研究計画案意見集約・検討、修正 |
| 3月 | 「はまなす」No.6 発行 | 次年度研究計画決定版・教育課程委員検討内容 |

教育課程委員会については、随時開催する。

(文責 鹿島 美穂子)